

桑野造船株式会社 〒520-0243 大津市堅田 1-21-2 TEL : 077-573-8001 FAX : 077-573-8002
URL : <http://www.k-boat.co.jp> E-mail : kuwano@k-boat.co.jp

先日、私にとっても古巣であるナショナルチームの訪問をかねて戸田に行きました。国体、インターハイの会場だけを見ていると忘れてしまいそうですが、残念ながら戸田のコースでは桑野艇は少数でした。昔、世界選手権の代表者会議の席上で当時のトーマス・ケラー会長は「艇置場が黄色一色はボート界にとって問題だ」と言いました。この発言の趣旨の解釈は人それぞれでしょうが、なにか理念の香りを感じました。この言葉を私なりに解釈して、桑野造船は国産ボート造りにどこまでもこだわりたいという思いを新たに返ってきました。【古川】

未来に向かって進化

- お客さまの役にたつ存在になる -

* 総てに挑戦

仕事の総てを見直し、新しく創る

* 存在価値の追求

国内メーカーとしての価値を高める

* スピードアップ

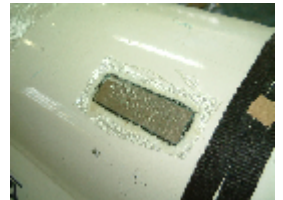
生産、開発、サービスにスピードを加える

簡単な艇修理法 【香川】

VOI.37 でご案内したメンテナンス講習会を今月末に開催します。参加者の皆さんには簡単な修理方法を実技形式で学んでいただきますが、今回の Boat Times では、ボートの修理はどういうプロセスで行うのかを簡単にご紹介したいと思います。興味を持たれた方は、ぜひ来年度のメンテナンス講習会にご参加ください。なお、大きな破損の場合は当社までご相談下さい。

傷口をふさぐ

まず、傷口が乾いているかを確認し、濡れている場合は乾かします。その間に、材料等の段取りをしておきます。次に、傷口の周りをマスキングし、カッターで傷口を広げます。広げたところに樹脂を塗り、その上から樹脂パテで埋めていきます。樹脂パテの上にさらに樹脂を塗った後、ガラスマットを1枚ずつ、数枚貼り付けていきます。ここまでの作業が終われば、硬化するのを待ち、次の段階へ進みます。ドライヤーなどであぶって温度を上げてやると、硬化が早まります。



ふさいだ傷口を平らにする

傷口が硬化したら、ペーパー60で削って平らにしていきます。このとき、傷口の周りに多少傷がついても大丈夫です。削り終わったら、削りカスなどをアセトンで清掃し、上からポリパテを塗っていきます。この状態で樹脂の硬化を待ち、硬化したら今度はペーパー320で削って表面を平らにします。急ぎであれば、ここまで終わった段階で乗艇することは可能です。

塗装する

まず、耐水ペーパー1000で傷口よりも大きめにこすります。こすり終わったらアセトンで削りくずを掃除します。缶スプレーを使って塗装をし、硬化するのを待ちます。最後の仕上げは、コンパウンドで表面を磨きます。仕上がりが荒ければ、耐水ペーパー1000~1500でこすり、再度コンパウンドでこすると、きれいに仕上がります。

良いボートコースは選手の声で その4 【岩佐】

<審判艇について> 漕手としての個人的な意見ですが、舵手なし艇種目の時、一部の審判艇に不満を感じたことがあります。漕手艇がレーンの中央を漕いでいるのに、審判艇が同じように中央を追走してこられると、ランドマーク、ブイ等が見づらいです。また、操舵表示板は見えません。それがゆえに負けてしまったり、失格になってしまったりすればともどもありません。私はゴール後に手を挙げて、審判艇に注文したことが何度かあります。もし、皆さんもこういった審判に出会われたなら、ゴール後に手を挙げて、レーンの端、ブイの近くを通ってくださるとお願いしてみてください。さて、この審判艇、大きな大会ですとカタマラン艇なのですが、全国どこでもがそうとは言えません。普通のモーターボートだったりします。これだと、大きな波が立ち水面が揺れて1×艇では漕げません。漕手はもし波が立っていたら、手を挙げてスターターに「少し待って下さい」と言ってみるといいでしょう。それよりも、レースの主催者にカタマラン艇を買って下さいとお願いするべきかもしれません。また、主催者側は選手に言われる前にカタマラン艇を用意するなど、スカル艇への十分な配慮が期待されます。これは宣伝ですが、当社のカタマラン艇は使いやすく好評です。シーズン前の今の内にぜひご検討ください。



お知らせ

* 滋賀県・瀬田でジャンニ氏のセミナーを開催！

今月末、2/24(土)17:00~ 瀬田漕艇倶楽部クラブハウスにおいて、ナショナルチーム・ジャンニヘッドコーチのセミナーが開催されます。参加申込・お問合せは瀬田漕艇倶楽部 (info@setarc.jp / FAX077-545-9961) まで。

* 「古川おやじのボートブログ」を立ち上げました！

社長の古川が、日頃感じていることやボート造りへの想いを綴っています。 <http://kboat.blog88.fc2.com/> (携帯からもOK)

BOAT TIMES の配信停止をご希望される方は、お手数ですが FAX (077-573-8002) 又は E-Mail (kuwano@k-boat.co.jp) で当社までご連絡下さい。また、ご意見・ご感想などもお待ちしております。

お手数ですがボート関係者へお渡しをお願いいたします。